

「女性医師支援センターの取り組み ～クローバー交流会の報告～」

獨協医科大学病院
女性医師支援センター
坪井弥生 前澤玲華 望月善子

背景

- 2011年に女性医師支援センターが開設され、キャリア・環境・情報・地域連携という4つのサポート体制で活動している

キャリア

男女共同参画の意識に基づいたキャリア教育とともに、プロとして仕事を継続できることを目指す

環境

育児や就労環境を整えていくお手伝いをする

情報

就労条件・育児・教育などの個別相談や、情報交換・啓発活動に努める

地域連携

地域の保育力の活用など、拓かれた医療機関を実現する

- サポートの一環として、クローバー交流会と称して、女性医師あるいは男性医師のロールモデル紹介や情報交換を行い、医師としてのキャリアについて考える場を設けている。
- 今回我々は、この交流会の参加者の声をまとめ報告する。

対象・方法

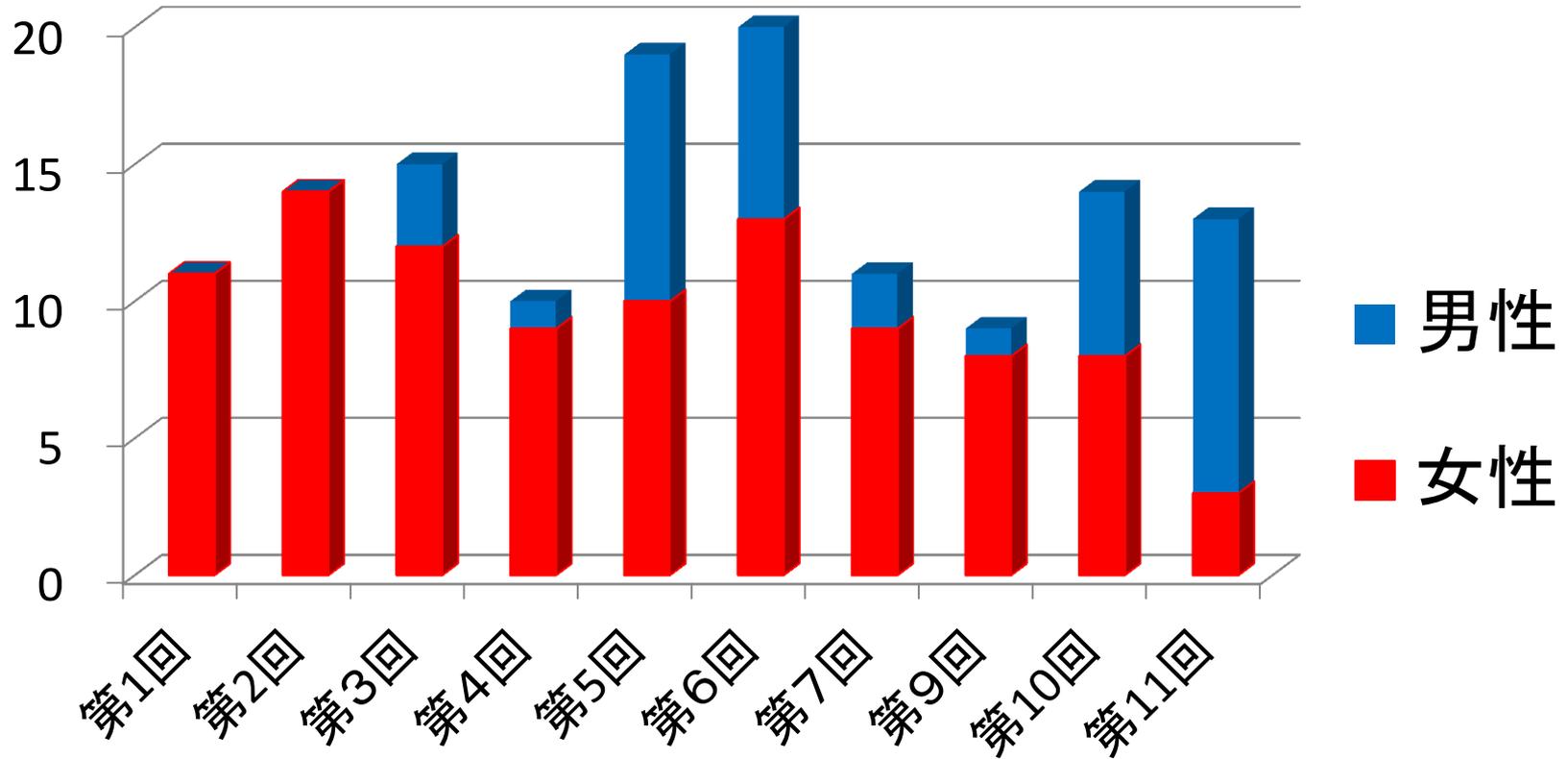
- 2012年3月から10回の交流会を行い、交流会参加者に、性別、年齢、職種、交流会を知った経緯、参加した感想などを問うアンケートを実施した。
- 参加人数は延べ207人、1回当たり平均20.7人（13－35）であった。
- アンケートには138人が回答（回収率66.7%）しており、結果の概要を集計し、検討した。

クローバー交流会

緑 基礎系の医師
青 男性医師

		ロールモデル	参加者(人)	アンケート回答数
第1回	平成24年3月3日(土) 13:30~15:00	循環器内科 呼吸器・アレルギー内科	17	11
第2回	5月26日(土) 14:00~15:30	脳神経外科 整形外科	21	14
第3回	9月1日(土) 14:00~15:30	皮膚科 小児科	21	15
第4回	12月8日(土) 14:00~15:30	第一外科(小児外科) 循環器内科	15	10
第5回	平成25年2月27日(水) 18:00~19:30	教育支援センター 眼科	26	19
第6回	5月22日(水) 18:00~19:30	第二外科 呼吸器・アレルギー内科	35	20
第7回	9月4日(水) 18:00~19:30	精神神経科 微生物学	19	13
第8回	12月14日(土)14:30~16:00	クローバー見学&ティーブレイク		
第9回	平成26年2月26日(水) 18:00~19:30	神経内科 小児科	13	9
第10回	5月28日(水) 18:00~19:30	内分泌代謝内科 産科婦人科	19	14
第11回	8月29日(金) 18:00~19:30	小児外科	21	13
計			207	138

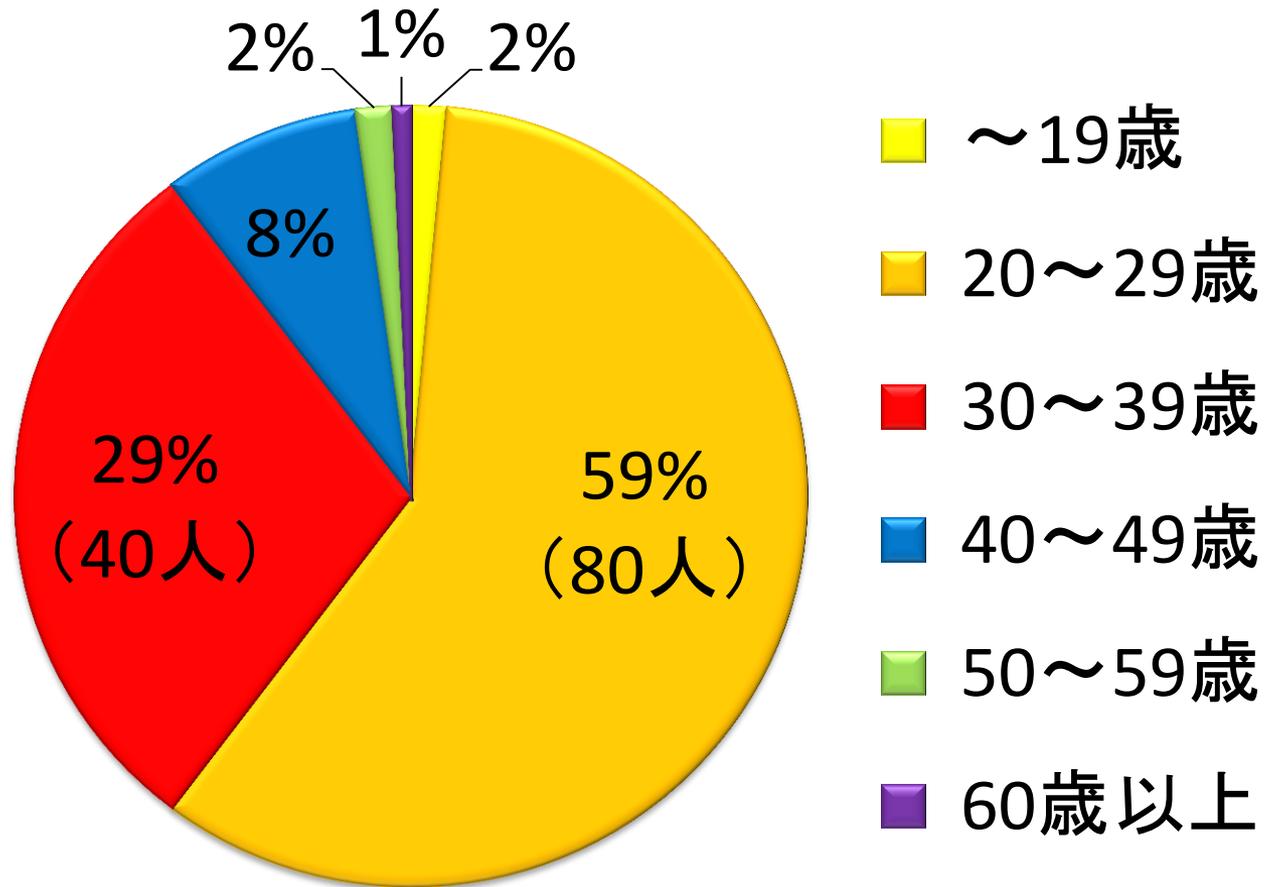
性別



男性 39人、女性 97人

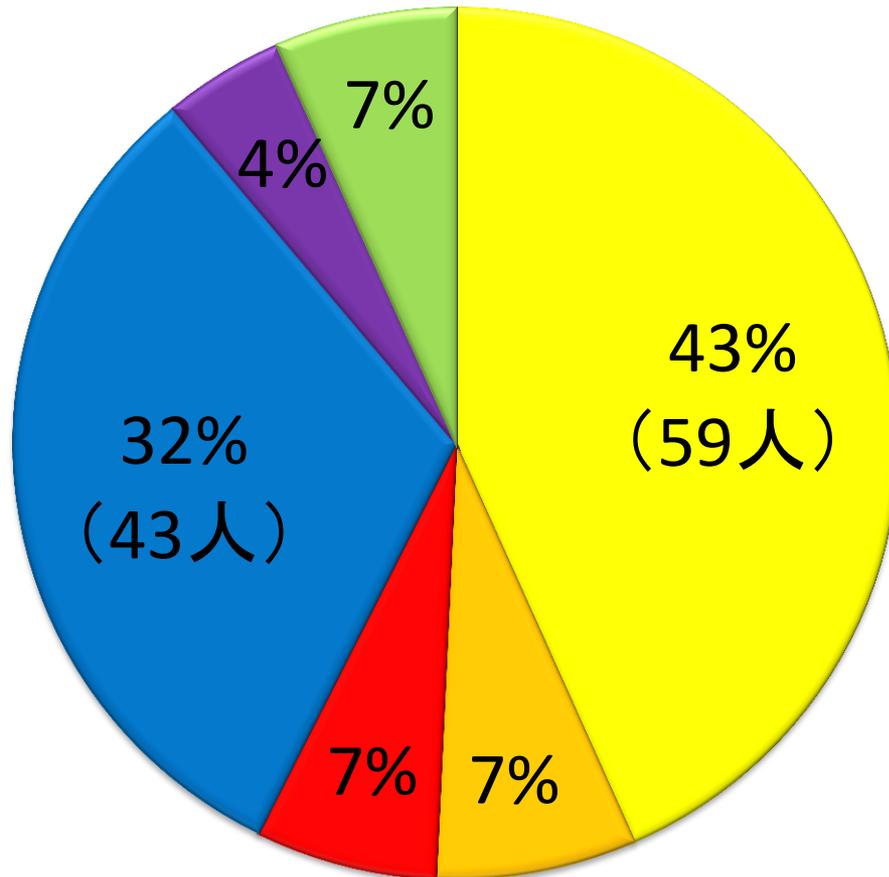
男性の回答が多かった第5回、6回、11回では教育支援センターの医師と男性医師がロールモデルであった

年齢



20代が80人と最多で、次いで30代が40人であった

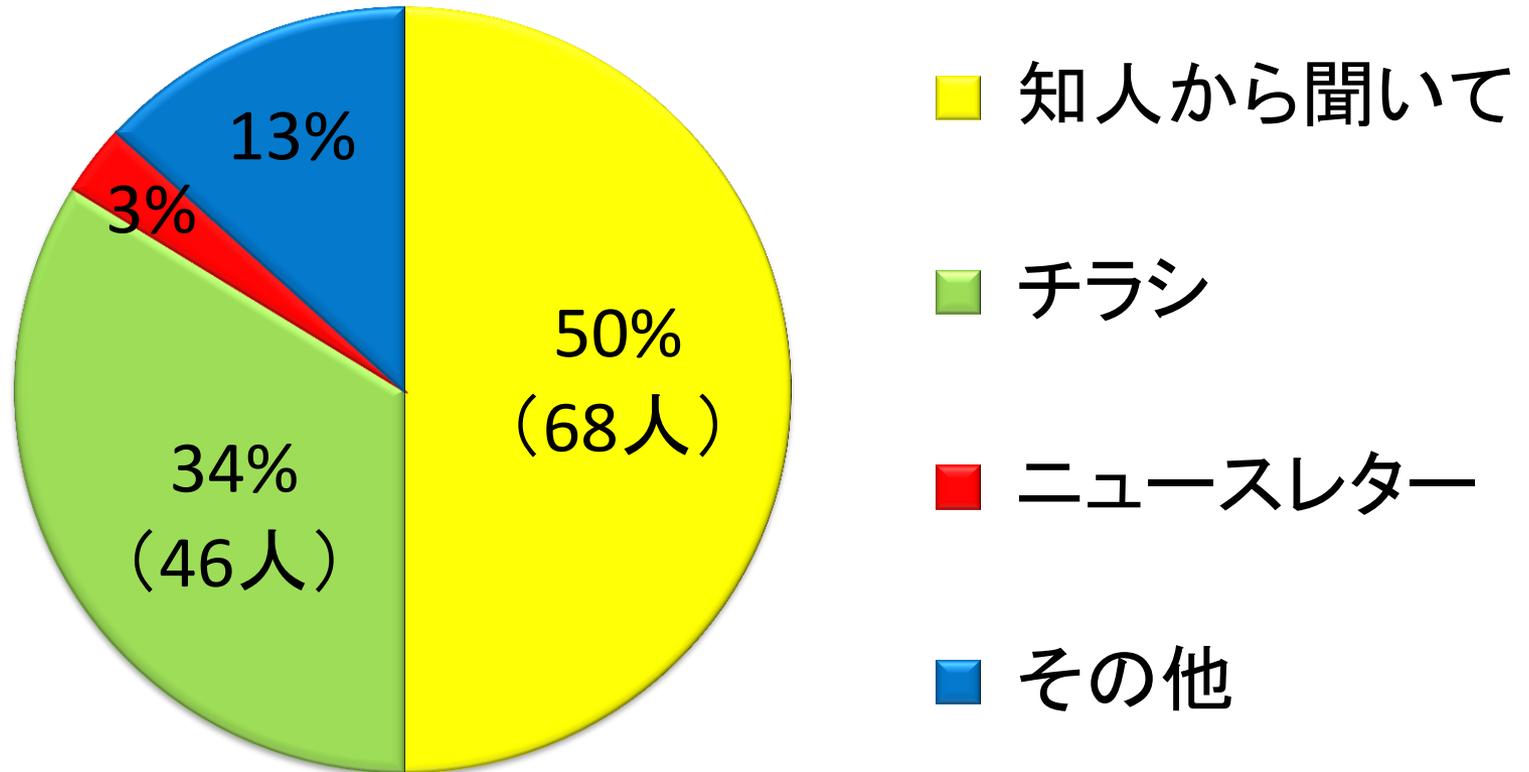
職種



- 医学生
- 前期研修医
- 後期研修医
- 助教
- 講師
- その他
大学院生
看護師
薬剤師
製薬会社社員など

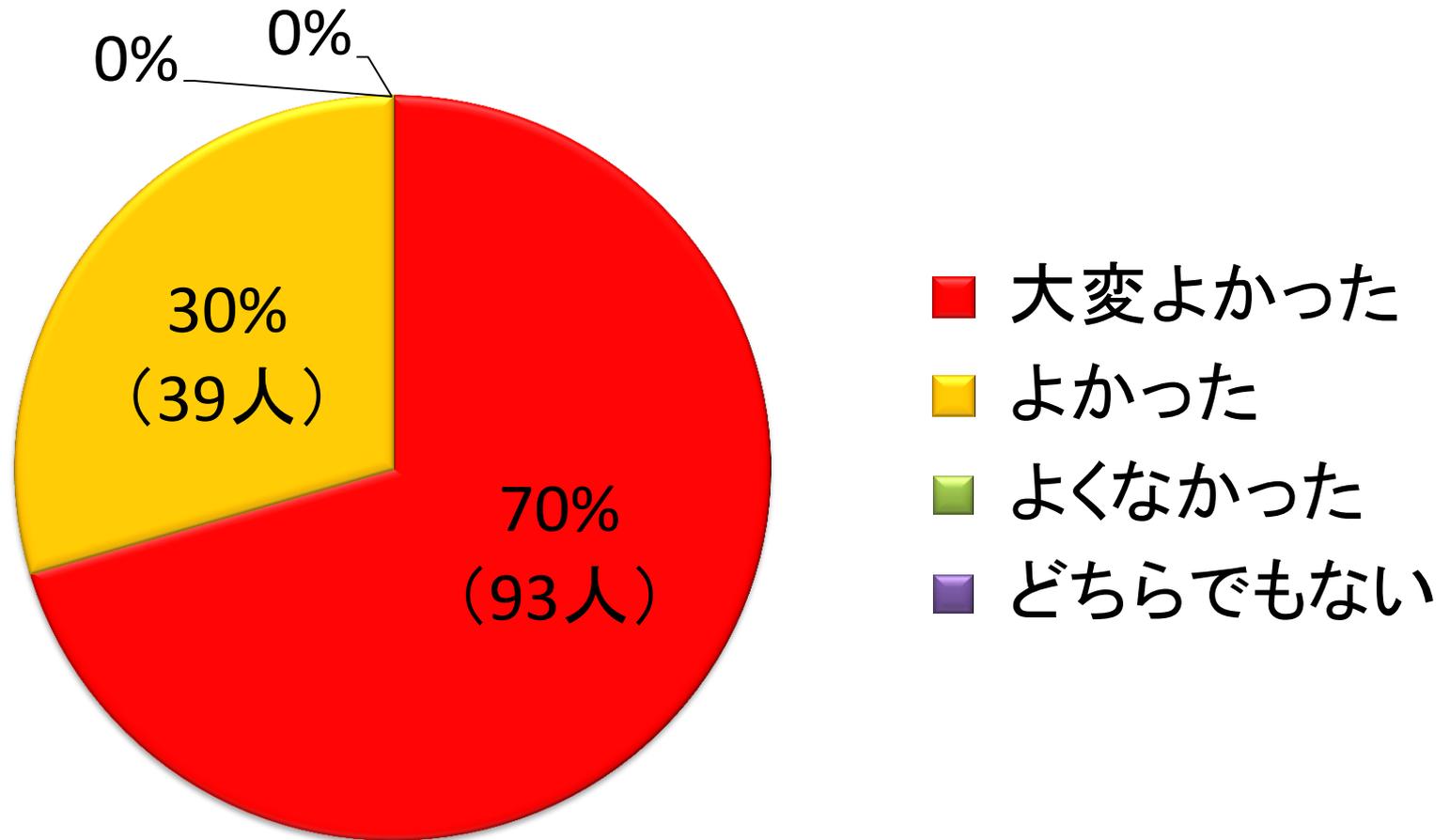
医学生と助教からの回答が3/4を占めた

情報源



知人から聞いて参加した人が68人で半数を占め、
チラシを見て参加した人が46人であった

感想



参加しての感想では大変よかったとよかったが多数でよくなかったは皆無であった

自由記載のコメント

- 自分の将来を具体的にイメージすることができた
- 結婚のタイミング、専門医を取るタイミングなどが聞いて良かった
- 自分も家庭を持った時に相手に任せっぱなしではなく、協力していきたい
- 子育てと仕事を両立する上での苦労や工夫を知ることができた
- 育児と仕事のバランスで悩んでいたが、先生方のエネルギッシュなライフスタイルに勇気をいただいた
- 保育園、家政婦さん、習い事など、関心のある話が聞いてよかった
- 他科の女性医師の話聞く機会がなかなかないので、大変参考になった
- 基礎の先生がどのようにキャリアアップしてきたか初めて知ることができた
- 同じ病院、大学で働く人の違った一面がわかった
- 女性医師が苦労している一面を知ることができた
- 働く男性医師のリアルな家庭との関わりが聞いて非常に参考になった
- 医局内で話しにくい内容も、同じ悩みをかかえる者どうし発表を通して共感できたり、様々な交流をする場となっていて良いと感じた
- アットホームで聞きやすく、話しやすい空間でとても有意義な時間だった

考察

- 多数の医学生が参加しておりキャリアデザインの形成に寄与していると考えられる。
- また、専門や立場が違う様々な医師の働き方を知ること、自分の働き方を見直し、仕事に対するモチベーションを上げることや、お互いを理解することで思いやりが生まれ、働きやすい環境をつくることができると思われた。
- 子育て中の女性医師だけでなく、誰にとっても働きやすい就労環境をめざして、今後も情報提供やキャリアサポートをしていけるよう努力していきたい。